

福島県ユニセフ協会創立15周年記念



ユニセフのつどい



去る6月28日(金)午後13:00より、「ふくしん夢の音楽堂」を会場に、福島県ユニセフ協会創立15周年記念「ユニセフのつどい」が開催されました。

日本ユニセフ協会を始め、全国の協定地域組織の代表の皆さん、共催いただいたJICA二本松、ルワンダの教育を考える会や県内の生協な

どの関係者170名が参加されました。

司会進行を県協会評議員事業所であるラジオ福島のアナウンサー高田優美さんをお願いし、JICA二本松所長の富安誠司様から、JICAの活動内容も含めた開会のあいさつをいただき、県協会会長の高橋雅行より、以下の内容のあいさつがありました。

「当協会は、2003年9月25日に国内13番目の地域組織として、誕生しました。現在、地域組織は全国25道府県に26の協定地域組織があります。

さて、その設立趣意書には、「明日を担う世界の子どもたちを取り巻く問題は、世界的課題の中でも対応が最も緊急かつ重要であり、そのことを解決することなしに、希望ある明日の世界を描くことはできません。」という記載がございます。

2011年、東日本大震災、原子力発電所事故があり、子どもたちを取り巻く環境も大きな影響を受けました。

私たちは、2011年9月に福島市議会に「子どもの権利に関する条例制定を求める請願」を行い、全会派一致で採択され、市議会の中に超党派で「福島市子どもの権利に関する省令制定推進議員連盟」が発足するなど議員提案の準備が進められました。その一方で、福島市教育委員会の協力をいただき、市内の小中学校や高校の児童・生徒と保護者を対象とした市民アンケート3,407人を集約



the 15th anniversary congratulations!

し、それをもとに条例案を福島県弁護士会の中の「子どもの権利条例制定をめざす弁護士の会」の協力で策定、市議会の中での勉強会などを精力的に行っていました。

途中、市議会選挙があり、また福島市に「こども未来部」も新設されるなどの動きがあったほか、市長選挙もありましたが、新しい木幡市政がスタートするなどしており、今後制定に向けて動き出していただけるとのことです。

そうした中、郡山市において、「郡山市子ども条例」が昨年4月に制定され、本年3月には、全国初となる「郡山市と県協会による包括的な連携・協力協定」が締結され、ユニセフの啓発事業や国連が定めた持続可能な開発目標 SDGs の推進事業に連携して取り組みを開始したところです。県内各地に、こうした運動が波及することをご期待申し上げています。

原発事故関連では、子どもたちやその保護者をケアする活動も日本ユニセフ協会、全国の協定地域組織、生協、各種団体などの支援をいただき福島県生協連、福島大学と連携して、震災のあった年から始め、この3月31日現在、1,787企画、84,769人という本当にたくさん子どもたちや保護者をケアすることができました。心から感謝申し上げます。

さらに趣意書では、県支部を設立することは、福島県におけるユニセフ協力活動がさらに大きな飛躍をすることを意味しています。そして、そのことは、世界の子どもの人権を守ることに繋がるとともに、私たち自身にとっても大きな意義があるものと確信しております。と結んでありました。

この15年間に寄せられた募金総額は、147,116,497円となっています。

これまでのご協力に感謝申し上げながら、今後のさらなるご理解とご協力をお願い申し上げます。

会場には、県協会顧問である郡山市長品川万里様、ルワンダの教育を考える会の会員でもある衆議院議員金子恵美様も来場され、ごあいさつをいただきました。



イベントブースでは、ルワンダの教育を考える会の物品販売が行われました。

売上金は、ルワンダの子どものための支援となります。協定地域組織の皆さんの各地のお土産も振舞われました。



第1部 「講演」



大切なもの 命・平和・教育

～子供たちの未来のために～

ルワンダの悲劇から学んだこと

NOP法人 ルワンダの教育を考える会

理事長 永遠瑠 マリールイズ 様

《プロフィール》

マリールイズさんは、ルワンダで、高校卒業後、技術高等学校に洋裁の教師として赴任し、結婚を機にキガリ市の技術高等専門学校に洋裁の教師として転任。

その後、青年海外協力隊カウンターパートナーとして福島文化学園にて学びました。

そして、25年前ジェノサイド、ルワンダ虐殺が勃発。この時、マリールイズさんは、子ども3人を連れ、隣国のコンゴ民主共和国の難民キャンプに逃れ、難民キャンプで偶然出会った

アムダの日本人医師の通訳となり、福島での研修生時代の友人らの尽力で家族そろって再来日を果たし、2000年「ルワンダの教育を考える会」を立ち上げ、キガリ市内に学校を設立。以後、命の尊さ、教育の大切さを訴える活動で全国を駆け回っています。現在も継続して教室の拡大、図書館や給食室も設置しています。

3.11の際は、避難所で、のちに仮設住宅でのボランティア活動も行いました。

2012年に日本国籍を取得。永遠瑠と名乗ることになりました。

2014年には、日本とルワンダとの相互理解の促進活動が認められ、外務大臣表彰を受賞しています。

《いただいたお話の概要》

26年前に初めて日本に来ましたそのきっかけは出会いです。

ルワンダと一緒に働いていた青年海外協力隊との出会いによって推薦を受けて福島文化学園で受け入れていただきました。その出会いがなかったら私は今生きていないかも知れません。研修生期間を終えてルワンダに帰国したのは1994年2月1日でした。夢いっぱい私でしたが、帰国してたった2カ月後ルワンダは虐殺が続いた内戦が勃発して幼い3人の子どもたち連れて爆弾が飛び交う中、命からがら奇跡的に逃げることができました。

1994年4月6日忘れもしません普通の日でした。仕事が終わり30人の同僚と交わした最後の言葉「また明日ね」(その明日は来なかったです)大統領の飛行機を襲ったミサイルの恐ろしい音によって、食事をしていた私たち家族は、何事もわからず止まった電気の暗さ無くすためにランプをつけてその光で続けて食べました。その後寝ましたが、夜中日本から電話がかかってきました。

受話器をとるとホームステイからの電話でした。大丈夫ですかと慌ただしい声で驚きま

した。ルワンダにいるのに何が起きているかわからず、日本からの電話で大統領が殺されたこととルワンダで戦争が始まっていることを知りました。その日からおびえる毎日でした。1週間後4軒隣に爆弾が落ちて、家の中にいることの方が、恐ろしく子ども3人を連れて、難民生活が始まりました。

当たり前の生活が止まった絶望の生活を送っていた私たち家族に希望を取り戻してくださったのは、以前日本での研修時代で学んだ日本語でした。ひらがなのおかげで通訳のお仕事をいただきました。

奇跡的に生き残った私たち家族は日本の友人たちの助けによって、再来日することができました。絶望から希望へと平和な日本で暮らすことに恵まれました。

生きていれば、学んだことがあれば、その人らしく生きることができると日本にきて感じました。ルワンダの内戦によって希望を無くした子ども

たちに夢を取り戻して欲しいという願いのもとで、福島文化学園の高橋啓子先生と一緒に「ルワンダの教育を考える会」を立ち上げました。

あれから25年が経ちました。

18年前はウムチョムイザ学園を立ち上げて、今幼稚園と小学校を作ることができました。264名の子どもたちが夢に向かって学んでいます。

格差の広がるルワンダ、貧しい家庭の子どもたちにも支援をし始めました。

歴史によって取り残されているミヨベ地区の支援を今後、進める予定です。

たり前の日々を送っている私たちですが、今日も世界のどこかで25年前の私たちのように、夜がくるのに怯えている人がたくさんいます。平和な毎日を送ることができるのは本当に幸せなことです。平和だからできること、生きているからできることを探し続けています。生きていれば、学んだことがあれば、その人らしく夢に向かって生き続けることができます。教育は平和と発展のカギと信じています。そのカギを全ての子どもたちにいきわたるように命あるかぎりがんばります。



第2部 「Mani Martin コンサート」

《プロフィール》

現代のルワンダ音楽、そしてアフリカ全土における誰もが認めるアーティストの一人である。彼はアフロソウル、アフロフュージョン、アフロビートスタイルというあらゆる分野で、この厳しい業界に入って非常に短い期間で成功を収めてきた。驚くべき音楽の才能を持って生まれた彼は、9歳の時に小学校の先生によってその才能を発見される。少年少女声楽隊に参加して以降ソロアーティストとして歌い続け、2年後、その独特な美しさを持つ声は周囲の教会中に知られるようになった。地元の民話に感化され、彼の運命へと続く長い道程に対するスピリットと情熱の火を絶やすことなく、2010年に音楽の道で生きていくことを決心した。

《歌っていただいた曲目》

☆オープニング

マニさん&マリールイズさんのトークと曲目紹介で幕開けとなりました。

1. 「AMANI」

2. 「MY DESTINY」

マニさん&マリールイズさんのトークショーや会場のみなさんとのトークもお楽しみいただきました。

3. 「Urukumbuzi」

4. 「Imbabazi」

ここからは鍵盤奏者藤野恵美さんとのコラボとなりました。

5. 「栄冠は君に輝く」

音楽堂に隣接する古閑裕而記念館、来年のNHK あさドラにエールが決まったということもあり、ご当地ソングとして「栄冠は君に輝く」を一生懸命覚えていただき、ご披露していただきました。

6. 「Amazing Grace」

☆エンディング

「INTERO Y' AMAHORO」



最後に、共催団体のもうひとつであるNPO法人「ルワンダの教育を考える会」の倉持睦子副理事長より、閉会のあいさつがあり、「ユニセフのつどい」をお開きとさせていただきます。



藤野 恵美



鏡石町在住シンガーソングライター。ブライダル・セレモニープレイヤーを経て、口笛やシャンソン等の伴奏や、朗読舞台での即興演奏など、鍵盤奏者として活動